

二 通 の 手 紙

— 秋の健康保育のために —

愛育研究所小児保健部

平 井 信 義



一、或る保育さんへ

佳子さん、夏休みも間もなく終り、いよいよ一學期が始まりますね。子供たちの顔を見る日が近付くにつれて、何か胸の躍るのが感ぜられます。守ちやんの顔、泰子ちやんの顔、みんな日焼して大きくなつて——二た月の休暇の間にどんなに變つたでしょう。今年も海や山へゆく子供たちは極く少なかつたが、蟬取り、水遊び——大きい子供に伍して遊び廻る弘ちやんの活躍振りも目に見える様です。

私は相變らず研究所の一隅で、調査用紙の山に圍まれ、例の如く青白い顔をしながら、それでも至極元氣に忙しがつています。あなた方に調査していたものを早く整理して子供たちの爲になる様な研究の成果を出したいものと張切つています。

あなたも講習を了えて——暑いさかりの講習で、本當に疲れたでしょう、御苦労さん、—— 塾科の叔母様の處で靜養さ

れている由、うらやましくも嬉しい限りです。子供たちと同様、あなたの元氣な顔、眼の輝き、明るいいでたちを迎える日が待たれます。

一學期——さう六月の初めでしたね、あなたが疲勞に眼の周圍を黒くして、足が重い重いつつていた半月がありましたね。あの頃の保育の不出來は、今思い出してもあなたに氣の毒な氣がします。あなたと同様、子供たちも元氣がなくなる、喧嘩は多くなる、ぼんやりした子供があつちの室の隅、こつちの窓邊に立つたまゝでいる。あなたが之ではいけないと心をひき立てようとすればする程、保育室は騒然として來る……

あなたの疲勞を早く發見しなかつたのは、一緒に生活している醫者として、本當に私の手落ちつたと、あなたにも子供たちにも濟まなく思つています。

いつでしたか倉橋先生が、保育の心に惱みがあつては保育がうまくゆかない、と仰しやつたのを覚えていますが、心と

同様に體に暗いところがあると、子供たちは本當に可哀想な目に遭うものです。保母の中に月々の生理のとき苦痛の多い人があり、それが鋭敏に保育に反映しているのを見ると「保育」と云う氣高い仕事に休みなく従事しているあなた方の努力は、一方ならぬのを感じます。今後私はそうした意味でもあなたの方のよりよい助言者であらうと心に誓つていきます。

あの時のビタミンB₁の注射はいたかつたでしよう、お氣の毒様。今度は無痛のが出來ていますから、何よりあなたの爲に祝福しましょう。

一學期の健康保育の成績をばつばつ整理しながら……この學期も、麻疹、百日咳、チフテリの恐しい傳染病を一回もこの幼稚園に出さなかつたことは、私共の誇ですね。自然に私の低い鼻も高くなるのを止めることが出來ないでいます。

その結果、あなた方も専心保育プランの實行に盡すことが出來、子供一人一人の發達が面白い様に跡付けられたと思えます。幼稚園保育所が傳染病の巢の様に云はれ、實際、傳染病が出た時の不安な思い、——之程暗い氣持になることはありません。この三年、私共の幼稚園にそうしたことが一度もなかつたのは奇蹟だつたのでしようか？

之は何と云つても、醫者と保母と家庭の連絡がよくとれていたことに由ると思えます。咳が出る子供には母親がつき添つて來るか、手紙を持たせてあなたに連絡する、あなたは直ちにこの私に連絡する、そして私が診断をし、怪しい者は登園を見合せる、この連絡です。母の講座を最初から活潑にひ

らいたのも非常に有意義でしたし、保母さん方の保健に對する勉強も熱心でした、——それらの賜と、私は本當に感謝しています。

とくにあなたの連絡は機敏で積極的で、母親からの連絡がないものでも、朝のあの簡單なインスペクシヨンの間に、病氣の始りそうな子供を選び出して私のところへ連れて來た——すい分大變なことでしたらうが、子供一人一人への思がよく行届いていて、子供たちも本當に幸福だなあと、いくたびも思いました。

之は始めた當初すい分面倒がられたインスペクシヨンの技術を熱心に體得され、元氣、眼の光、咳、鼻、皮膚のつやなど、——今更ながら私の注意をあきずに聞いて下さつたこともあづかつていることでしょう。

二學期も氣持を合せて、子供に健康な生活をさせる様に努めてゆきましょう。

一學期には體重増加の悪かつた子供たちでしたが、この秋こそは面白い様に太るでしょう。去年でしたか、眞佐子ちゃんなど二・五疗も太つて、ズロースのゴム紐が皮膚に喰込むのが分る程太つて來て、二人で大笑いしたことがありましたね。秋は病氣も少い、清々しい秋空の下で太陽を仰いで子供たちと精一杯の活動をすることが出來ると思ふと、微笑が湧いて來ます。冬の準備に使われる季節です。この秋は一學期に弱かつた子供たちを丈夫にする工夫を第一にしてゆきましょう。ではお元氣で——

二、或る幼稚園児の母親へ

避暑先からの御便り有難うございました。敬治ちゃんを思ひ切つて海へお入れになつた由、よくおばあ様がお赦しなされたことゝ、一寸驚き入りました。

一學期には敬治ちゃんが矢張一番風邪のために缺席が多くありました。貴女様の仰しやる様に之だけでは弱い子でありましょう。或は虚弱児の内に入れられるかも知れません。私には然し、このまゝ弱い子として成長してゆくとは思えませんが、ツベルクリン反應は陰性ですから、勿論結核性體質——そんなものはないのですが——でもなければ、腺病質でもありません。私には、敬治ちゃんが必ず丈夫になると信ぜられます。

私に、丈夫にして欲しいとの仰せで、私には望外の名譽と存じますが、之は幼稚園のみで私が頑張つても甲斐のないことです。總ての教育がさうである様に、幼稚園と家庭との連絡がよくとれていないと、却つて子供に思はぬ負擔をかけることになります。教育が二元化しては不幸です。

又、御家庭の中でもお母様、お父様、おばあ様が一體となつて一元的な採健えの方法をとつていたゞかないと却つて病氣を招くことになります。

私は先づ敬治ちゃんを薄着にする（厚着から救い出す）ことを目標にしたいと思います。一學期いつの検査でも敬治ちゃんが一番着物の枚数が多く、六月末の雨の日に五枚も着て見え

たことがありました。正直な話これにはびつくりしました。

大切な唯一人の御子様と思うと、私でさえ脱がせることに臆病になりますから、まして御家庭の皆様の思い遣りは無理からぬことゝ存じますが、御家庭でもこの十月迄は裸で生活させる心組をして下さい。幼稚園に見えたときは、私の監督で裸を勵行しようと思つて存じますから——脅してはありませんが、九月が大切です。一寸寒いからといつて着せ込むことのない様、一つ二つくしやみしてもはやる心を抑えて下さい。

風邪は大部分が傳染病ですから、自分から引くと云うことは考えられません。どんなに寒くとも風邪の病原菌がなければ安心です。然しこの病原菌を地球上より撲滅することは困難でしょう。それですから病原菌が體に入つてもそれに打克つ體を作つておかねばなりません。

それには寒さに慣れた皮膚粘膜を作つておくことです。だんだん冷い空氣になじませておけば、一寸やそつと急な温度の變化が來ても、體は驚きません。皮膚表在の血管の收縮がうまく行われるからです。

處が澤山着せ込んでおくと、皮膚粘膜も寒さに對する用意が出來ませんから、氣候の急變に會つと調節がうまくゆかず病原菌はこの時と勢力を得ます。いくら着せ込んでみても人間にはすぎがあります。澤山着た衣服の下の皮膚にじつとりと汗をかいている時程、すぎだらけのことはいけません。ことに子供は汗つかきです。あつがりです。これはお年寄りと全く反對の現象でしょう。

斯う申し上げれば、敬ちやんが風邪を引く筋道はお分りになつたと思います。せめてランニングシャツで充分です。九月の太陽に當てゝ下さい。幼稚園でも之を續けて参ります。その他肝油を一と匙宛、お八つと一緒にのませることにいたしました。

では——もう一つ思ひ出したことがあります。之も一學期の或る日、子供たちをつれて近くの公園にいつたことがありました。そこには一寸した崖があつて、誰が始めたのか、子供たちはその崖を滑り始めました。次第に皆の子供が加つてどの子のお尻も泥で眞黒になつています。

處が敬ちやんと二三人の子供はじつと立つてそれを見ているのです。目は輝かせていますが滑らうとしません。私は二三回言葉で促してみましたが、何か躊つていましたので、私は手をひいて崖の上に登り、突落す様に滑らせました。敬ちやんはきやつきやつと笑いながら滑つてゆき、その後一二度は自分で滑りましたが、何か氣付いた様に止めて、今度はしきりとズボンについた泥を拂わうとしてゐるのです。

子供は泥だらけになるのが商賣ですのに。遊びが、いたづら、その生命ですのに、その生命の前には總てが無價値です。敬ちやんはその生命をどこかに置忘れたのだからか、私はそんな風に考えました。

健康な生活のもととは清潔にあります。然しお行儀よくよござぬ様にしておくことではありません。出来るだけ全力をあけて遊べる様な被服を着せ、泥だらけ汗まみれに遊ばせる、

その遊ばせたあと始末をきちんとしてやるのが健康保育のねらいです。

全力をあけて遊ぶことの出来ない子供は、自然性格の發達にも、躰の發育に及んで来るでしょう。性格の弱い子供になりましょう。筋骨も軟い子供になりましょう。敬ちやんの弱いことの一つもそこにあると思われます。

お隣の子供が多少暴れん坊であつても、その子と遊ばせる様になさい。子供同士がよいのです。いぢめられ様が、たゞかれ様が、子供の爲には、おばあ様がお相手なさるより遙かによいことでしょう。幼稚園でも泣かない子供になるでしょう。躰も丈夫になるでしょう。

皆様が御歸京なされたら、幼稚園が始る前に是非御邪魔して、皆様ともよく御打合せいたし度う御座います。宜敷御取次の程お願い申上げます。

(五頁より)にはまだむづかしいことであるが、心の方向としては、正義を愛する心と、和を好む心とは、決して矛盾するものではない。殊に教育の用意として、この、それ、重要な心の養成は常に考えられていられるものである。或は更にこまかく言えば、和を愛する心こそ眞に奥深いところに、又、最もひろくとした意味で、強くというよりも切實に養われなくてはならぬものであろう。事に當つて正義を守らなければならぬということよりも、常に求めて休むことない心といつていゝものであろう。